

私たちの想いを知っておられる

2012年12月28日 アシェル・イントレータ

いつの日か、わたしたち全ては神の前に立ち、この人生において何を行なったかについて申し開きをするときが来ます(マタイ 16:27、Ⅱコリント 5:10、黙示録 20:12~13)。しかし神はわたしたちの行いだけを裁かれるのではありません。イエシュア(イエス様)は、周りにいた人々の想いを知っておられたことを、ルカは3回述べています。

ルカ 5:22 – その思い(訳注:新改訳版では「理屈」ですが、英語版(欽定)では「思い」)を見抜いておられたイエシュアは…

ルカ 6:8 – イエスは彼らの考えをよく知っておられた。

ルカ 9:47 – しかしイエスは、彼らの心の中の考えを知っておられて

姦淫とは物理的に行動していなくても、心のもち方によってそうなりとイエシュアは言いました(マタイ 5:28)。同じことが殺人についても言えます(マタイ 5:22、Ⅰヨハネ 3:15)。イサクの誕生についての知らせに、サラが笑った逸話について考えてみましょう。果たして彼女は笑ったのでしょうか。もしわたしたちがその場にいたならば、「笑わなかった」といったと思います。彼女は心の中で笑ったのです(創世記 18:12)、しかし神はそのことを実際に行動したものと認識されたのです。

裁きの日には、わたしたちの行いだけが明らかにされるのではなく、心の中の秘密をもあらわにされます。

ローマ 2:16 – 神のさばきは、… 人々の隠れたことをさばかれる日に、行なわれるのです。

Ⅰコリント 14:25 – 心の秘密があらわにされます。

考えてみて下さい、裁きの日には、大きなビデオスクリーンが降りて来て、あなたのところに秘密にしてきた画像が、何億人もの人や御使いの前で映し出されるのです。そのことにより、わたしたちの内には神への畏れが生まれてきます。しかし感謝なことに、イエシュアの血潮と真実な悔い改めとにより、そういった心に思い描いた画像のファイルは、きれいに消去され、削除されるのです。

預言の後半

ポーランド・クラクフ、クルジュシュトフ・クライエフスキ牧師

わたしたちに将来への先見性が与えられ、イエシュアの生まれる 700 年前にイザヤによってなされた約束の前半だけが成就したことを理解できるよう、聖霊様が助けて下さいますように。

イザヤ 9:6

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議、助言者(訳注:新改訳では「不思議な助言者」)、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。

もはや揺り籠の赤ん坊ではなく、力ある神であるイエシュアは、預言の後半を成就する準備のため、全宇宙の王座に就かれるのです。

超越的生き方

フランシス・フランジペイン(引用)

普通「destiny=使命」というと、神様のために、自分に与えられている特別な賜物を用いて行なう、何か物理的な任務というようなものを思い浮かべます。しかし、わたしたちの使命の実質的中核とすべきは、わたしたちの賜物や特定の召命ではありません。その使命とはキリストのようであることなのです。キリストに似たものとなるのが、わたしたちが存在する理由であると信じるなら、当然わたしたちはキリストの似姿となるべく追求し続けてあるべきなのです。

わたしたちは天国自体をこの地に現すことが出来そうなほど、その賜物と召命が力強く、人の心を捉えるミニストリーの指導者たちを見てきました。ところが衝撃的なことに、ある日その本人が秘密裏に、最も恥ずべき罪に陥っていたことが、後日発覚するというようなことがあります。このようなことは、なぜ起こるのでしょうか。わたしたちが、自己の人格の成長ではなく、個人の賜物や召命を発展させることを主要な目標としている場合、わたしたちはサタンの攻撃に対して非常に脆くなります。

イエシュアのようになることが、わたしたちの存在理由なのです。(全文は www.frangipane.org を参照の事。英語)

コール・ジュネーブ(召命・ジェノバ集会)

コーディ・アーチャー

12月8～12日「ザ・コール(召命)ジュネーブが、ゲートウェイビヨンド(門の彼方)ジュネーブ支部の運営、現地のスイス人牧師の方々の協力、およびベドロス・ネサニアンとルー・イーグル(ザ・コール・アメリカ)の司会により開催されました。

初日には 12 時間の祈り、断食、悔い改めの時がもたれました。私にとって印象的だったのは、アシェルがジャック・S(パレスチナ人クリスチャンリーダー)の上に手を置き、アラブ人の救いのために激しく祈り、そしてジャックが代わってユダヤ人のために祈ったことです。この歴史的な分裂の上に、癒しの力を解放されたことが感じられる程、神の臨在が強力だったのです。

アシェルとダン・ジャスター、他の国際的に有名な指導者が「改革と回復の学び」で教えました。これほど高度に、しもべの心、道義心や、共同して御国を立て上げていく精神を実践していくため、世界からの色々なミニストリーや現地の牧師たちが一堂に会したことは、驚くべきことです。今までになかった方法で、イエシュアがヨハネ 17 章でなされた一致のための祈りが答えられている時代に、わたしたちは生きているのです。

クライマックスとなるイベントは、サンピエール大聖堂(カルバンの母教会)で 12-12-12 の夜に、溢れんばかりの人々とともに行なわれた賛美とワーシップの時でした。詳しくはこちら www.thecallgeneva.com をご覧下さい。(英語)

ユグノーコネクション

アラン・ナドラー(引用)

ホロコーストの最も暗黒の時代にあって、占領下のヨーロッパでユダヤ人にとって一番安全だった場所は、おそらく南フランスの小さな村、ル・シャンボン・シュル・リニオンだと思われます。村のユグノー派(フランスのプロテスタント)の牧師に動機付けされた住民たちは、その戦争時において最も良く統制され、最大規模となったユダヤ人に対する救出作戦が行ない、また匿い、そうして約5千人の命を救ったのです。

このユグノーコネクションは、決して偶発的に起こった事件ではありませんでした。むしろこのことはユグノーが構築して来た歴史的なユダヤ人に対する親近感によりもたらされたひとつの現象だといえましょう。それはフランスプロテスタントに、ひいては改革派プロテスタントの「父」、ジャン・カルバンの聖書に基づいた神学に、根付いたものなのです。

[アシェルからひと言: 1971 年の夏、ハーバードを卒業したての長髪の私は、ヒッチハイクでフランス中を旅行しており、ル・シャンボン・シュル・リニオン村を通りました。そこである人が私に福音を分かち合おうとしましたが、私には理解できませんでした。そして数年後、私がイエシュアの信者となったとき、初めて何が起こったかを理解したのです。]

祈りのお願い

ジョン O さん、ローズ D さん、ヴァシエック K さんの癒しのために。

イスラエル政府選挙における良い結果のために。

アル・ハヤットテレビとイスラエル・ハイテレビの(霊的)収穫がさらに増えるように。(訳注:アルハヤットはアラビア語の、ハイテレビはヘブライ語の伝道 TV。双方とも「生」を意味する。)

ヤド・ハシュモナの建築計画に突破口が与えられるように。

アハヴァット・イエシュア・Congregation(教会)の新しい集会所が恵みによって与えられるように。